

ふれあいネットワーク事業 実施報告！

1月「日本食 お料理教室」

1月22日(日)に、中央学習センター実習室で行ったふれあいネットワーク事業は、日本食お料理教室でした。クッキングアドバイザーの久家先生に「豆腐のお好み焼き」や「ひじきの簡単炊き込みごはん」など、簡単

▼美味しく料理をすることができました！



▲先生の説明を真剣に聞く参加者の皆さん

に作れる美味しい日本の家庭料理を教えてくださいました。班に分かれて協力しながら料理をすることで、和気あいあいとした雰囲気の中で、参加者同士の交流も深まり、楽しく料理をすることができました！

国際理解講座「地球体験キャラバン ～みんなで世界を感じてみよう～」

2月



▲日本語を使わずに、上手くコミュニケーションをとれたかな？

ホームな講座となりました。

参加した中学生は、本市市民の中にも海外で活躍する人たちが多くいることを再認識するとともに、海外というものをより身近に感じたようでした。

今年度最後のふれあいネットワーク事業では、青年海外協力隊経験者の皆さんに「異文化」や「世界」について体験談の披露や、参加者との交流を楽しみました。

始めに、クイズやコミュニケーションゲームなどを行い、徐々に笑い声も増え大変アット



▲協力隊の皆さんの話に、興味津々！

JICAシニア海外ボランティア インドネシア
職種:化学・応用化学 橋本 裕光さん

スラムッシャーン!
(こんにちわ!)



1955年生まれ74年福島高校卒78年大学卒業後、鉄鋼・廃棄物・製紙・半導体・食品等の分野で製造設計技術開発に従事しました。2014年から2年間インドネシアでJICAシニアボランティア活動に従事し、2016年10月に帰国しました。

私は鉄鋼会社の経験を活かしインドネシア工業省傘下のセラミック研究所に於いて耐火物の技術指導をしてきました。インドネシアの製造業は発展の初期段階にあり作業者レベルの技術が普及していません。工場に行くとそこは50年前の日本の工場。これは基礎から教育が必要で現場のリーダーが技術的に強くないとダメだと思いインドネシア語の耐火物の教科書(400ページ)を研究所で作りました。

インドネシアは日本の5倍の国土に2倍の人口が暮らす大きな国です。イスラム教徒が90%をしめ、日本と同じ火山国で地震・津波の大きな被害にあっています。熱帯雨林気候であるため、衣食住にはこまりません。のんびりした国民性です。私が住んでいたバンドンは首都ジャカルタから電車で3時間、標高700mに位置する人口200万人の大都市です。まだ工事は一部しか始まっていないけど2019年には中国製の新幹線ができるそうです。日本と中国の受注合戦があり中国に軍配があがりました。日本はジャカルタの地下鉄を作っています。日本からの進出企業も多く存在します。環太平洋火山帯に属するため、火山が多く地震・津波もあります。2004年のスマトラ沖地震では多くの犠牲者がでました。火山博物館には、大きな火山のモデルが置いてあり被害の状況、火山のしくみなどが展示してありました。土地が肥えていて、雨が多いのでお米がたくさんとれます。米の生産量は7000万t世界3位です(日本は1000万t)。米の消費量は160kg/人 1日3合のお米を食べています。お祝いの時には、黄色いお米のケーキを食べますし、ちまきもあって福島が懐かしくなりました。



▲インドネシア語研修の仲間と

インドネシアで還暦を迎え、二本松のJICA訓練所から一緒だったJICA隊員から赤いバティックをいただきました。2年の長丁場、無事に過ごすことができたのは、家でまっていた家族と仲間のおかげです。ありがとうございました。

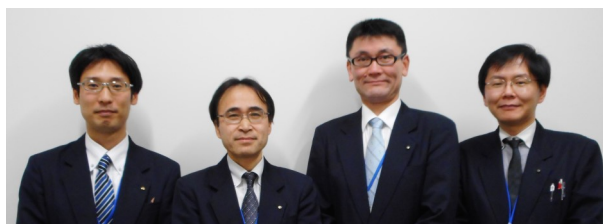
今年度もありがとうございました!

- 6月 5日 福島市国際交流協会総会 & ランチパーティー
- 7月16日 親睦交流 お国自慢コンテスト & 暑気払い懇親会
- 9月17日 結・ゆいフェスタ2016
- 9月25日 中学生海外派遣事業 結団式
- 10月3~9日 中学生海外派遣事業 オーストラリア派遣
- 10月23日 和体験～民家園・広瀬座で行う 着物・日本の作法講座～
- 11月20日 中学生海外派遣事業 帰国報告会
- 12月17日 ふれあいバスツアー
- 1月22日 日本食 お料理教室
- 2月12日 国際理解講座「地球体験キャラバン ～みんなで世界を感じてみよう～」

今年も1年間、福島市国際交流協会の活動にご参加いただきまして、大変ありがとうございました。

平成29年3月1日現在、14団体と90人の方々に会員となっていております。また、今年度は左記のイベントに、1,204人の方に参加していただきました。このようなイベントが実施できたのも、ひとえに皆様のご協力のおかげです。ありがとうございました。

次年度も、本市の国際交流の推進のため各事業の充実を図ってまいりますので、来年度も皆様のさらなるご支援の程、何卒よろしくお願い致します。



▲福島市国際交流協会事務局一同
 「来年度も、よろしくお願いします!」